

## 地域における福祉の推進 [高年]

# ボランティアから始まる「ネットワーク」の構築

特別養護老人ホームをはじめとした当法人の7つの高齢者施設のボランティアを総合的にコーディネートするために、「ボランティアコーディネーター」を配置している。「施設」と「ボランティア」の関係にとどまらず、「地域」や「学校」も含めた幅広いコーディネートを行い、「ボランティアネットワーク」を展開している。

愛知県

社会福祉法人 サンライフ

〒483-8363 愛知県江南市河野町五十間59  
TEL: 0587-57-3301 FAX: 0587-57-2251

### ◇法人設立年

昭和62年

### ◇法人実施事業

- ①経営施設（事業）数：38事業
- ②経営施設・事業の種類：  
特別養護老人ホーム…6、介護老人保健施設…  
1、ケアハウス…2、訪問介護…1、訪問リハ  
ビリテーション…1、通所介護…5、通所リハ  
ビリテーション…1、短期入所生活介護…5、  
短期入所療養介護…1、小規模多機能型居宅介  
護…1、認知症対応型共同生活介護…4、居宅  
介護支援事業…3、養護老人ホーム…1、生活  
支援通所事業…1、生活支援短期宿泊事業…1、  
地域包括支援センター…2、高齢者向け有料賃  
貸住宅…1、介護付有料老人ホーム…1

### ◇法人の理念・経営方針

#### <理念>

1. 利用者様がもてる力を発揮して、自信と幸福を感じられる生活を支援します。
2. 利用者様の自己決定を尊重し、一人一人のライフスタイルを支援します。
3. 職員が働く場に喜びと誇りを持ち、自ら改革する力を持てるよう育成します。
4. 法律、その他基準に従って、常に組織・運営を見直します。
5. 地域とともに少子高齢社会を考え、安心な街づくりに貢献します。
6. 地域社会の変化と改革の先駆者となります。

### ◇取り組みを実施している施設の概要

#### 【施設名】

サンライフ江南、第2サンライフ江南、ジョイフル江南、第2ジョイフル江南、フラワーコート江南、ジョイフル布袋、ジョイフルむつみ

#### 【施設種別及び利用定員】

特別養護老人ホーム、介護老人保健施設など、エリア全体で実施している

### ◇活動内容

- 活動開始年  
平成18年6月
- 活動の対象者  
地域住民、ボランティア、施設職員
- 活動の頻度・時間  
活動状況に応じて対応するため、頻度・時間は決まっていない。

### ◇活動実施の背景、実施にいたった理由

長い間、法人内では多くのボランティアの方にご協力をいただいていた。しかし、同じ法人の施設にもかかわらず「隣の施設では何をしているの?」といった声もボランティアの方から聞かれていた。振り返ると今までは、施設ごとでのボランティア懇親会の開催であったり、合同行事の時に「感謝状」を施設ごとに贈る程度で、ボランティア全体を取りまとめることはしてこなかった。

ボランティアの窓口を一本化したら、現在は「一施設」だけの活動であっても、今後「法人全体」へと活動の幅が広がっていくのではないかと考えた。また、今までの対応では「受け入れる」ことで手一杯であったが、法人内で施設が増えていく中、「ボランティア同士をつなぐ」、「新たな活動者を養成する」、「情報を収集・発信する」、「学び（学習）を支援する」など、多様化した体制が築けないだろうかと考えた。

そこで、平成18年6月に特別養護老人ホーム3施設（現在4施設）、介護老人保健施設1施設、養護老人ホーム1施設、デイサービスとグループホームの併設型1施設の計7施設（19事業所）の総合窓口として「ボランティアコーディネーター（以下、VC）」が配置され、『ボランティアネットワークの拠点作り』が始まった。

### ◇実施内容

#### ①法人内ボランティア懇親会の開催

年に1～2回開催し、交流のほかに施設常勤医による「メタボ予防法講座」や、鍼灸マッサージ師による「簡単ツボ押し講座」を取り入れ、高齢化するボランティアの方の「ケア」にも力を入れてきた。

#### ②個人ボランティアのフォローアップ

個人ボランティアの方を対象に、年に3回プチサロンを開催している。「認知症高齢者との接し方」など学習の場を提供している。

#### ③養成講座の開催

「お話し相手ボランティア養成講座」、「ボランティアはじ

めの一步！」など、地域住民や学生が気軽に参加できる内容で実施している。

#### ④「お試しボランティア」の導入

初心者には、法人で3年以上の経験がある先輩ボランティアと一緒に「体験」ができる体制を取り入れている。

#### ⑤ボランティア情報紙の発行

毎月1回発行し、法人内で活動されているボランティアの紹介、行事の案内、ボランティア懇親会や養成講座の報告などを掲載し、ボランティアの方と地域住民に配布している。

#### ⑥ボランティアによるボランティア活動の見学

法人内ではたくさんのボランティアの方が活動しているため、スキルアップのためにボランティアによる見学を受け入れている。

### ◇活動効果（利用者や職員、地域などの反応、影響）

VCに窓口を一本化してから、それまでボランティアとして活動いただいた方の情報の整理を行った。同時に新規ボランティアに対しても「登録制」を取り入れ、現在までの登録者数はグループが約85、個人が約150名に上った。職員向けには「ボランティア受け入れ勉強会」を開き意識改革を行った。その結果、ボランティアに対する受け入れにも積極性が現れ、職員にも少しずつ変化が見られるようになった。

「ボランティア懇親会」には、多くのボランティアの方が参加するため、「横のつながり」を希望するボランティアには絶好の機会となっている。「懇親会」を通じて他の活動を知り、そこには新たな発見があり、自分の活動の刺激となっているようである。

今ではボランティアの方だけではなく、学校や社協にも『VC』という存在が浸透し、まずVCに連絡が入るようになり、「学校・社協→VC→各施設」へという仕組みができあがった。それにより、依頼内容や希望人数によっても、法人内でマッチする施設へコーディネートできる体制が築かれた。

### ◇今後の展開

VCを拠点とし、「施設」、「社協・学校」、「地域住民」をそれぞれ大きな塊として捉え、その塊をつないで「ボランティアネットワーク」を築いてきた。ただ、今までは「施設＝受け入れ側」、「社協・

学校＝送り出し側」、「地域住民＝訪問する側」という位置付けであった。学校や地域といった「大きな塊」の中には、まだ新たな力がたくさん眠っている。その眠っている力を見つけ、支援していくことが今後、私たちの果たす役割なのではないだろうか。

これからは、外部へ出向く必要があると感じている。今まで施設内で開催していた「ボランティア養成講座」、懇親会で行っていた「健康に関する講座」を、地域の公民館や学校で行う方向へ転換していき、今まで発掘できなかった新たな力を見出していきたい。そして、第2次「ボランティアネットワーク」を構築していきたい。



### ◇主な経費や財源及び人員等

※年間あたり

主な経費	経費概算額	主な財源	財源概算額
ボランティア懇親会（平成21年9月開催）経費	12,000円	法人負担（介護報酬より）	67,000円
ボランティア懇親会（平成22年3月開催）経費	50,000円		
ボランティア養成講座（2回）経費	2,500円		
プチサロン（3回）経費	2,500円		
<合計>	67,000円	<合計>	67,000円

- ・取り組みにかかわった職員数 30名  
（職種等：施設長をはじめ、取り組みに応じて様々な職種が参加）